

ジェネリック医薬品について



東日本大震災は茨城県にも甚大な被害をもたらしました。ひたちなか市においても多くの皆様が被災されました。ここからお見舞い申し上げます。

当院では幸運にも患者さんをはじめ、人的被害も物的被害ありませんでしたが、断水のために3月22日まで休診せざるを得ずご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。

さて、今回のテーマのジェネリック医薬品について述べさせていただきます。

ジェネリックメーカーは、ジェネリックは効き目が先発品と同じでしかも安いのでジェネリックを使うようにしましょうと盛んに宣伝しています。

今から30数年前医者になった頃、ジェネリックは「ゾロ品」と言われていました。特許が切れたとたんにゾロゾロと発売されるからです。当時は「ゾロ品」を使っている医療機関は軽蔑されていました。効き目のわからない、もうかる安い薬を使っている、もうけ主義の医者だということです。大学に勤務していたときも「ゾロ品」は処方しないようにとの教育を受けてきました。

ジェネリックは先発品と同等であると言われていますが本当に先発品と同じ物なのでしょうか。残念ながら先発品と同じなのは有効成分だけで、添加物や製造工程も違い、カプセル剤や錠剤など剤形も違います。全く同じものではありません。

今年の2月に日本で一番大きな武田製薬の「ダーゼン」という薬が、全く効き目のない薬ということで自主回収されました。40数年前に発売された薬で、わたしも効果があるものと信じて処方してきましたので愕然としました。当然特許は切れていて、「ゾロ品」も多くでています。では、なぜ効果のない薬が特許切れ後20数年も処方されてきたのでしょうか。ジェネリックを許可するときに実際に効き目があるかどうかという試験をすれば分かったのではないのでしょうか。なぜ、効く薬かどうかの試験がされなかったのでしょうか。

そうです。ジェネリックの発売時の検査は、薬物の血中濃度が先発品と同等であることを確認する有効性試験だけなのです。患者さんにどの程度効果があるかという臨床的な有効性の試験はされません。また、安全性の試験もありません。すなわち副作用の調査もしなくてよいのです。ジェネリックを許可するときに臨床試験をしておけば長年にわたって効かない薬を発売することも無かったのではないのでしょうか。厚生労働省の薬事行政の不備がもたらしたものです。

厚労省はジェネリックの処方を増やそうとして、処方箋に「ジェネリックに変更不可」と書いてなければ薬剤師が自由に薬を選んでよいことにしています。最近はあまり聞くことがなくなりましたが、「医者さじ加減」という言葉があります。医者は患者さんを診察して、一人一人に最適と思われる薬の種類と量を選んでいきます。勝手に変更されることは医者としてのプライドが許しません。

医療機関を選択する場合には、地理的な要素や医療機関の規模などのほかに、入院設備があるかどうか、手術が出来るか、リハビリテーションが可能かなどいろいろな要素があります。なかでも患者さんに適切な薬を選択しているかどうかは医療機関を選別する大きな要素であると思います。

当院では、ジェネリックは長年処方されている効果と安全性が確立されたジェネリック薬以外はたとえ患者さんの要望があっても原則的に処方致しません。

当院の理念「患者さんの利益を最優先し、正確な診断と最良の医療を提供する」を追求するためであることを是非ご理解頂きたいと思います。

理事長 小松 満

ス イ ス 留 学 報 告

昨年の10月から4ヵ月間スイスに留学させていただきました。あつぷる通信の紙面をお借りして、そのご報告をさせていただきたいと思います。

私が留学していたところは、スイス北部、フランスとドイツ国境に接するスイス第3の都市バーゼルから電車で20分ほど離れた、Liestal（リースタール）という人口1万2千人の小さな田舎町です。田舎町って言うても、日本で言えば県庁所在地にあたる町で、その州立病院で勉強させていただきました。小さな町の病院ですが、整形外科の教授は世界的に有名な足の専門医で、ヨーロッパだけでなく、アフリカやアメリカからも患者が診察を受けに来ていました。手術見学にも世界中からきていました（もちろん日本からも）。そんなすごい先生のもとで4ヵ月研修してきました。

スイスでの生活について少しお話いたします。スイスは緯度が高いため（北海道の稚内よりも高い！）、私が行った10月-1月は夜が明けるのは9時近くになってからです。そんな中、スイスの1日は7時から始まります。毎朝7時からモーニングカンファレンスがあります。月曜日は



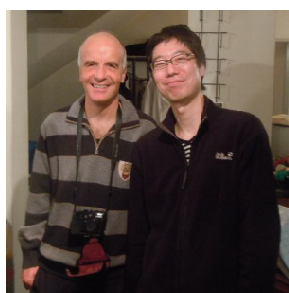
リースタール州立病院



リースタール

8時からミニレクチャーがあり、9時から外来見学です。昼過ぎに外来が終わりますが、それから翌日の手術患者の回診があり、13時半から午後の外来が始まります。火曜日から木曜日は手術のお手伝いです。手術は3部屋使って行うため、手術が一つ終わったら次の部屋へと、朝から夕方まで休みなく続きます。金曜日は外来ですが、13時から14時くらいには終了します。そして土曜、日曜はお休みです。そんな1週間を過ごしていました。外来では週50人くらい、手術は週20例くらい見ていたので、4ヵ月でかなりの症例に接することができました。症例としては外反母趾や関節変形、靱帯損傷といったものが多く、私が見たかった人工足関節も頻繁に行われていました。人工関節はやはり難しいと感じました。しかし他の疾患は日本でも十分できることと思いました。これから小松整形外科医院にどんどん還元していきたいと思っています。

スイスの食生活についても少し。スイスはやはり物価が高かったです。なんとマクドナルドのセットが千円以上しました。ゲストハウスに宿泊していたので、はじめ病院のレストランで食事していたのですが、日本で言うところの定食（セットメニュー）が900円もするので、途中からは自炊していました。自炊といってもたいしたものを作れるわけでもなく、あつという間に7kgもやせてしまいました（帰国2ヵ月で完全に戻りましたが・・・）。



Hintermann 教授と

スイスでは朝が早かったり、言葉が伝わらなかったりと、いろいろ大変でしたが、病気のとらえ方や診断、治療法がいままで日本で学んだことと異なることもあり、新たな知識を得ることができました。スイスでの経験を生かしてもっとみなさまのお役に立てるようにがんばっていききたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。



医師 小松 史



T字杖の

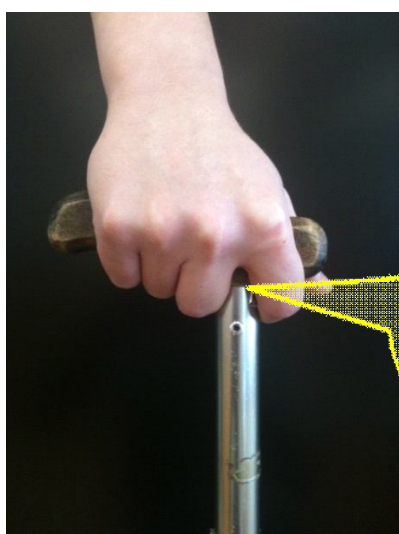
◆ はじめに

T字杖は一般的に多くの方が使用されていますが、杖の使い方や高さの合わせ方が分からないという質問を多く受けます。

簡単にT字杖の基本について書いてみます。

◆ T字杖の持ち方

基本的に**痛い足と反対の手**に持つことで、痛い足への負担が軽くなります。
下の写真のように杖を握るとより安定して杖を使用できます。



人差し指と中指
で挟む



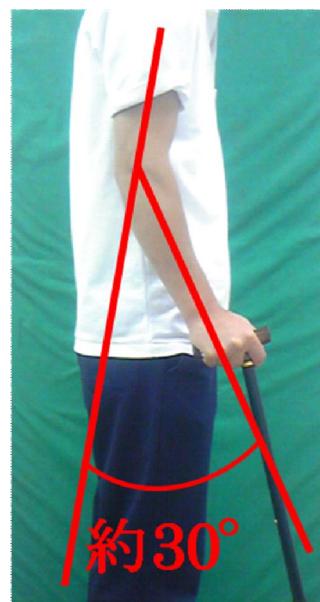
◆ T字杖の高さの決め方

- ①立った姿勢で合わせます。
- ②杖側の足の小指から外側へ15cm、前方へ15cmの所に杖を突きます。
- ③肘が軽く曲がる高さ(約30°)に合わせます。

②



③



の使い方

◆ T 字杖歩行

歩く時は、杖と痛い足を一緒に突くようにすると痛い足への負担が軽くなります。

◆ T 字杖段差昇降

① 段昇り： **痛くない方の足から** 昇る。

※右足が痛い場合



② 階段降り： **初めに杖を突き、痛い方の足から** 降りる。 ※右足が痛い場合



以上、簡単ですが T 字杖に関して書かせて頂きました。しかし、これらはあくまでも基本であり、全ての人に当てはまるわけではありません。

杖の持ち手や高さは自分の使用しやすいように変更しても問題ありませんので、自分の利き手や体の状態に合わせて、自分の体に合った杖を使用して下さい。

もし、杖に関して質問などございましたら、気軽に声をかけて下さい。

